

大天守の各階

大天守は、外 5 階、内 6 階の木造建築である。高さは 29.4m で、乾小天守、渡櫓とともに 1594 年に完成したとされる。

1 階

1 階は中央のプラットフォームを広い廊下を取り囲んでいる。柱に開けられた小さな穴から、かつて中央のプラットフォームは 4 つの部屋に分かれており、食糧や火薬、武器などを保管していた可能性がある。

2 階

2 階は 1 階と同じような大きさと機能だが、格子窓があるため、守備側は敵軍を見下ろすことができ、より広い視界を確保することができた。また、柱に開けられた小さな穴から、最大 8 つの部屋があったことがわかり、倉庫として、あるいは非常時の兵舎として使用された可能性がある。この階は現在、松本城火縄銃コレクションとして公開されている。

3 階

3 階は「ダークフロア」とも呼ばれ、格子状の屋根破風からほのかに光が差し込むだけである。構造上、3 階は 2 階上部から突き出た寄棟屋根の庇に隠れており、窓を設けることは不可能である。この階の正確な用途は不明である。一角に 4 階へ出入りするための開口部があるが、この開口部の用途は謎である。

4 階

4 階以上になると、城の内部は大きく変化する。天井が高くなり、窓が増え、柱はすべて滑らかに鉋掛けされている。下層階のように柱に小さな穴が開いているわけではなく、開放的な空間をカーテンや屏風で 3 部屋に仕切っていたと思われる。

4 階の一番大きな間仕切りは、もし大名が籠城することがあれば、その居間になったと思われる。この部屋は薄いすだれで仕切られており、使用者の地位の高さを示している。

5 階

5 階は、敵襲時には作戦室として使用されたであろう。この階の窓は格子状で広く、四方八方に面しているため、城内や周辺を安全に監視することが可能である。

この階の柱はすべて 16 世紀の築城時に使用された当時の材木である。北側の柱には、ロープの跡が残っている。1913 年、傾き始めた大天守を調整するための固定具として使用されたものと思われる。

6 階

6 階は有事の際には大名の司令部として使用されたであろう。パノラマ式の窓からは、周囲の景色が遠く

の山々まで見渡せる。

1950 年代の修理で、6 階の外側が縁側として設計されていた可能性があることが判明した。松本の厳しい冬を考慮して、あるいは雨水が浸入して下の階を傷めることを恐れて、囲いを設けたのだろう。